



メニコンCSRレポート

2017

Menicon CSR report 2017

トップメッセージ

ステークホルダーの皆様と夢を共有し、 社会の持続的発展に向けて 挑戦を続けていきます

メニコンは、「より良い視力の提供を通じて、広く社会に貢献する」を企業スローガンに、さまざまなコンタクトレンズ製品やケア用品の開発をはじめ、業界の常識を変える定額制システム「メルスプラン」の導入など、社会に貢献する製品とサービスの提供に取り組んできました。

創業65周年を迎えた2016年は、シリコンハイドロゲル素材の1日使い捨てコンタクトレンズ『1DAYメニコン プレミオ』の販売開始や、ブランドの一新、さらには睡眠中に角膜形状を変化させて視力を矯正するオルソケラトロジーレンズを取り扱う株式会社アルファコーポレーションがメニコングループに加わるなど、大きなトピックスを生んだ1年でもありました。特に『1DAYメニコン プレミオ』には、角膜に接するレンズの内面を指で触れることなく眼に装着できる革新的なパッケージを開発し、SMART TOUCHを実現しています。私たちは一人ひとりの眼の健康を守り、いつも快適な視生活を過ごしていただくための基礎研究や製品開発、創意工夫の技術、サービスに全力を投じています。

コンタクトレンズ業界では初の試みであった「メルスプラン」は2001年の誕生から多くのコンタクトレンズユーザーのご賛同をいただき2017年3月末現在で122万人に会員数を拡大しました。昨年、西日本エリアを中心にコンタクトレンズ販売店「シティコンタクト」を展開する株式会社エーアイピーがメニコングループに加わり、「Miru partner」としてショッパ展開をすることになり、メニコン直営販売店「Miru」ショッパとしての統一ブランド化を図っていきます。お客様には安全で安心できるレンズをご使用いただけるメルスプラン取扱店の“可視化”ができ、メルス会員の拡大強化に繋がっていきます。

メニコンでは、他にも動物医療事業、環境バイオ事業、ライフサイエンス事業の新規事業をはじめ、禁煙推進事業など、あらゆる分野にわたって先を見据えた取り組みを行っています。これらは多々課題もありますが、私たちの豊かな未来を描く“夢”でもあります。社会への貢献活動をメニコンの企業価値として捉えていただき、すべてのステークホルダーの皆様と“夢”を共有していきたいと願っています。今後も社会の持続可能な発展に向けて挑戦し続けていきますので、ぜひ見守っていただきたいと思います。



株式会社メニコン
代表執行役社長

田中英成

CSR方針

1. メニコングループは、人・社会・地球環境の調和を図り、社会に役立つ商品とサービスの提供を通じて、持続可能な社会の実現を目指します。
2. メニコングループは、国内外の法令をはじめとする社会ルールを遵守し、企業倫理を常に向上させ、持続成長可能な事業活動を行います。
3. メニコングループは、CSR意識向上を図り、従業員一人ひとりが常に高い認識を持って行動します。
4. メニコングループは、CSR活動に関する情報開示を行い、ステークホルダーと対話を深めながら、利益ある成長を図ります。

エンドユーザーとの関わり	エンドユーザーとのコミュニケーションを大切にし、使いやすさ・わかりやすさに配慮した安全な商品・サービスを提供する。
業界関係者との関わり	事業や各種協会等外部活動を通じ、公正な社会環境を整える支援を積極的に行うことで、広く社会に貢献する。
社員との関わり	従業員の人権を尊重すると共に、キャリア開発を支援し、働き甲斐を感じることのできる人事・教育制度と、福利厚生制度を確立・運用することにより、従業員満足を高めて、グループ組織としてのパフォーマンスを向上させることを追求する。
株主との関わり	コンプライアンスとリスクマネジメントの強化および安定した業績により株主満足度を高める。
社会との関わり	環境関連法規(省エネ法)およびその他の同意事項を遵守すると共に、環境に配慮したエネルギーや資源の効率的使用を実践する。 —材料・資材の調達や製品の購入において、開発段階から、より環境負担の少ないものを優先する。 —事業活動における廃棄物の低減に努める。 文化事業を通じ、地域住民や社会に貢献する。 受動喫煙を無くしたいという考え、思い(きれいな空気 瞳にも)を社会全体に浸透させ、より健康的で、クリーンな環境・社会を創出する。

～安全哲学憲章～ Premium Safety その先の「安全」を目指して

私たちメニコンは
高度管理医療機器を取り扱うメーカーである。
だからこそ、私たちはお客様の眼の「安全」を
最優先に考えたものづくりをしなければならない。

私たちメニコンの考える「安全」とは、
「時代に先駆けて、より高い基準を自ら設定し、
それを越えるべく挑戦し続けることによって
はじめて実現される安全」である。
私たちはひたむきにこの「安全」に
こだわり続けることにより、
お客様と共に驚きと感動を分かち合えると信じる。

私たちメニコンは
研究開発から生産、物流、営業活動を含む
あらゆる企業活動において、
「安全」を一貫して追求する体制を整え、
進化させる努力を決して惜しまない。
これが医療にたずさわる企業の
社会的責任であると考えてる。
また、これが「目にたずさわる責任」である。

さらに、私たちメニコンの挑戦はこれに終わらない。
私たち一人ひとりが
「安全」を語る伝道師として夢と誇りを持ち、
新しい「安全」を創造するために不可能と思われる
領域に対しても積極果敢に挑戦し続けていく。

以上が私たちメニコンの「安全哲学」である。

CONTENTS

- 01 トップメッセージ
- 02 CSR方針
 - 安全哲学憲章
- 03 企業理念
- 04 事業概要
- 05 CSRインデックス
- 06 連結業績ハイライト
- 07 コーポレートガバナンス
- 11 特集
- 12 ①視力を提供する
- 15 ②眼の健康を守る
- 17 ③技術と人材を育成する
- 18 ④持続可能な価値を創る
- 19 エンドユーザー
- 20 社員
- 21 業界関係者
- 22 株主・投資家

- 23 社会
 - [環境・動物社会への貢献]
- 社会
- 25 [地域社会への文化活動]

企業理念

＜ 企業スローガン ＞

より良い視力の提供を通じて、広く社会に貢献する。

＜ 経営理念 ＞

Values 価値観

何もないところから、新たな価値を生み出すという、誰もやっていないことに、果敢に挑戦すること。

創造 Creation

独創 Originality

挑戦 Challenge

Mission 私たちはどんな企業でありたいか

メニコングループは、コンタクトレンズで培った技術と人で、社会に役立つ商品やサービスを世界に提供し続ける創造型スペシャリスト企業であること。

Vision 私たちが実現する夢 単なる夢で終わらせない夢

すべてのステークホルダーから尊敬され愛される企業の頂点、No1になる。

ステークホルダーに対するMission

エンドユーザー	パイオニアカンパニーとして、優れた技術で見える喜びと生きる喜びの提供により顧客満足を高め、すべての顧客から永く『エンドユーザー』として利用し続けたい企業と思われること。
業界関係者	リーダーカンパニーとして、業界発展への積極的な寄与により外部研究者、得意先や取引先などの協同者満足を高め、すべての業界関係者から永く『パートナー』として関わり続けたい企業と思われること。
社員	人間尊重カンパニーとして、自己実現できる生きがいのある就労環境の整備により従業員満足を高め、すべての従業員から『ファミリー』として働き続けたい企業と思われること。
株主	道徳尊重カンパニーとして、遵法精神を貫き、健全な業績により株主満足を高め、すべての株主から永く『サポーター』として応援し続けたい企業と思われること。
社会	地球市民として、すべての生命や環境、すべての文化や歴史に敬意を払い、すべての市民の満足を高め、すべての尊い命から永遠に『良き隣人』と思われ続ける企業であること。

＜ 品質方針 ＞

優れた技術で見える喜びと生きる喜びの提供により顧客満足を高める。

＜ Vision2020 ＞

2020年の当社グループのあるべき姿

- 商品開発から顧客サービスまで一貫した優秀なシステム・体制を構築・維持することによって他の追随を許さない商品とサービスを世界中へ提供し、顧客からの絶対的な信頼・支持を得ていること。
- 業界関係者や同業他社との提携・協力についても柔軟な姿勢をもって臨み、健全なグローバル市場を確立し、秩序を維持することによって、エンドユーザーの健康を守っていること。
- コンタクトレンズで培った技術を応用し、創造的かつ独創的な技術で眼科医療分野以外の新規事業に進出し、生命や環境に対しても新しい商品やサービスを提供していること。

事業概要

会社概要

会社名	株式会社メニコン
本社所在地	〒460-0006 愛知県名古屋市中区葵三丁目21番19号
創業	1951年2月
設立	1957年7月
代表者名	代表執行役社長 田中英成
資本金	33億79百万円(2017年3月31日時点)
従業員数	1,208名(2017年3月31日時点)
事業所数	営業所15、販売店47、研究所・工場6、 カスタマーセンター1、物流センター4(2017年3月31日時点)

事業紹介

コンタクトレンズ事業

安全性へのこだわりと、快適さや便利さを備えたコンタクトレンズの創造と進化を追究するメイン事業です。そのためにお客様の声に耳を傾け、お客様の目線で発想し、製品とサービスの領域を広げ、新たなニーズにお応えすることが私たちの使命と認識しています。「視力の提供を通じ、信頼できるパートナーとしてお客様の人生と関わっていく」想いから、お客様の瞳の未来を見つめ、生涯にわたって一人ひとりにふさわしい「見える喜び」をお届けしています。



動物医療事業

家族の一員であるペットの瞳は、飼い主とのコミュニケーションに欠かせない感覚器官です。同事業では、人間の眼科分野におけるコンタクトレンズ・眼内レンズ開発で培った技術をベースに、動物の眼科医療に応用した犬用眼内レンズ「メニわんレンズ」や、犬猫用の「メニわん治療用コンタクトレンズ」を開発・発売し、獣医師とともに日本の動物眼科医療の発展に貢献しています。



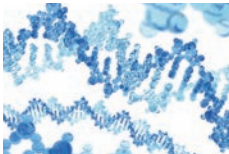
環境バイオ事業

コンタクトレンズケア用品の開発で培った技術を環境バイオ事業分野に活用しています。酵素技術を活かした稲わら分解促進材「アグリ革命」の開発をはじめ、家畜排泄物を迅速にたい肥化する「resQ45」、食品残渣などの未利用資源の活用など、メニコン独自の学術的な研究開発アプローチで、環境バイオ事業の可能性を大きく広げています。



ライフサイエンス事業

60年以上にわたるコンタクトレンズ事業で培った開発力や技術力、そして最も目を向けなくてはならない「安全性へのこだわり」を、ライフサイエンス領域である生殖補助医療、基礎研究、先端医療など、眼科領域以外の分野への展開によって新しい製品・サービスを提供しています。



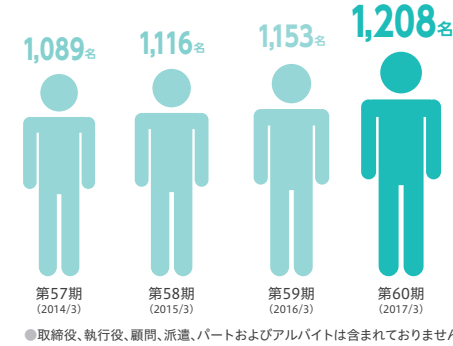
グループ会社紹介

【日本】	【アジア】	【欧州】
株式会社メニコネクト	Menicon Singapore Pte. Ltd.	Menicon Holdings B.V.
株式会社メニコンビジネスアシスト	Menicon Singapore Sales Pte. Ltd.	NKL Contactlenzen B.V.
株式会社メニワン	温州欣视界科技有限公司	Menicon SAS
株式会社ダブリュ・アイ・システム	First Glory Holdings Ltd.	Menicon Pharma SAS
富士コンタクト株式会社	Menicon Korea Co., Ltd.	Menicon GmbH
株式会社アルファコーポレーション	Menicon Australia Pty Ltd	Menicon Limited.
株式会社エーアイビー		Menicon España S.L.
		【北米】
		Menicon America, Inc.
		The Lagado Corporation

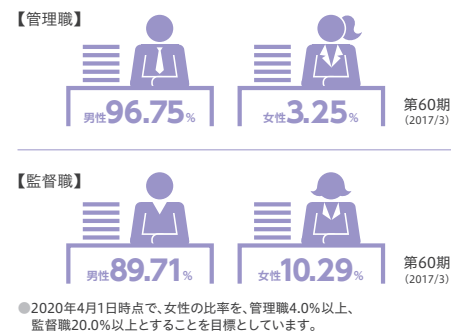
CSRインデックス

従業員に関するデータ

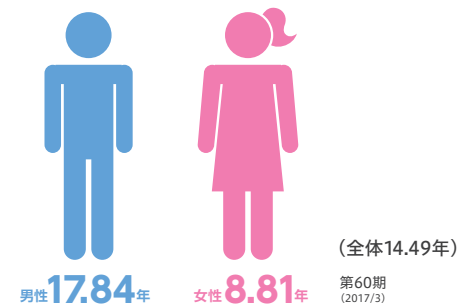
●従業員数(単体)



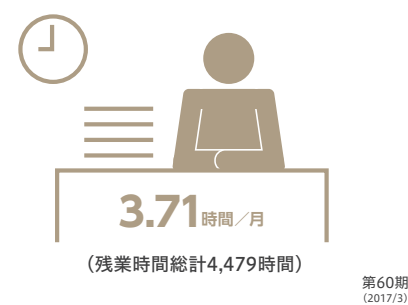
●管理・監督者構成比(単体)



●平均勤務年数(単体)

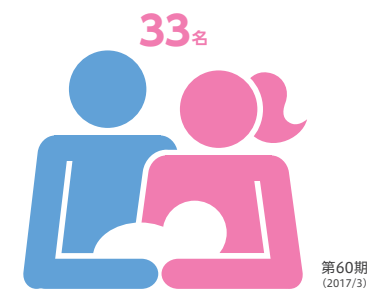


●平均残業時間(単体)

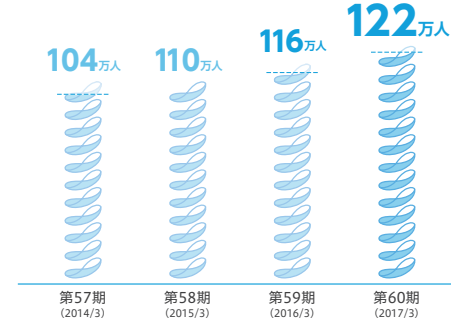


エンドユーザーに関するデータ

●育児休業取得者数(単体)

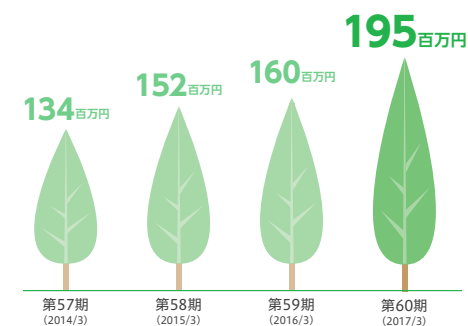


●メルスプラン会員数

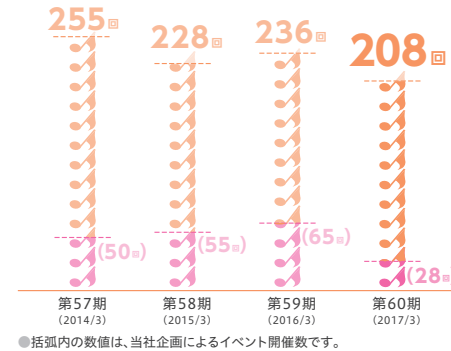


社会に関するデータ

●環境関連ビジネス売上高(単体)

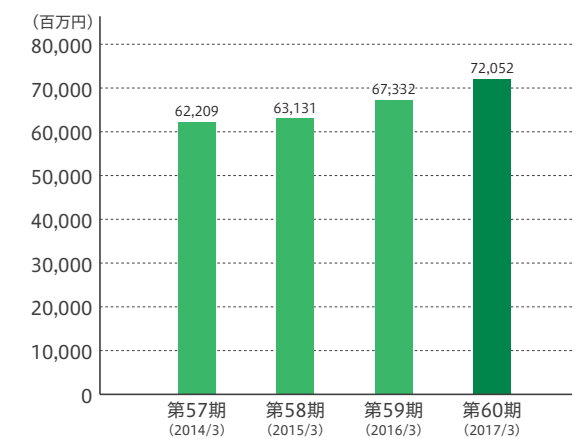


●HITOMIホールでのイベント開催数

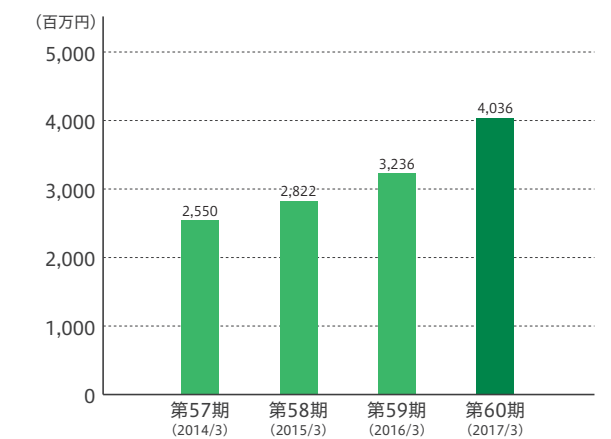


連結業績ハイライト

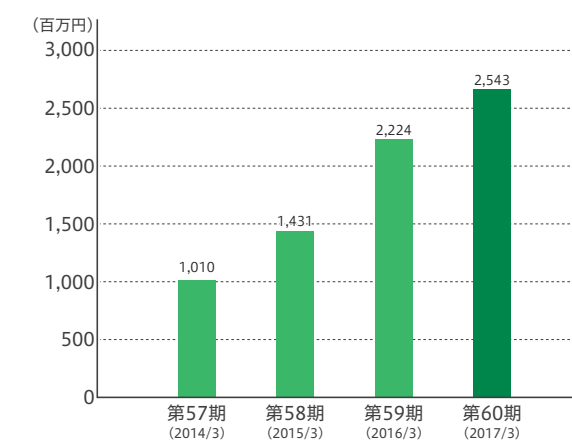
売上高



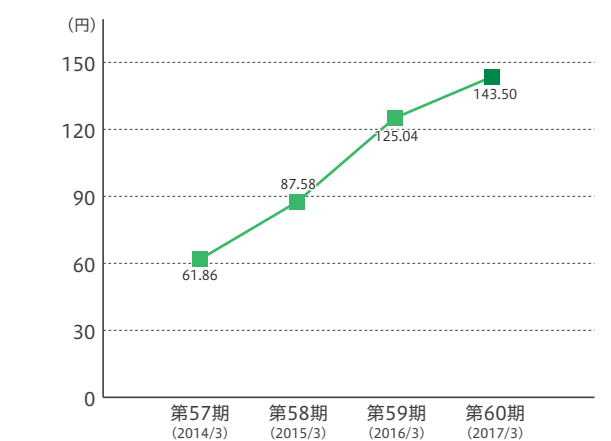
経常利益



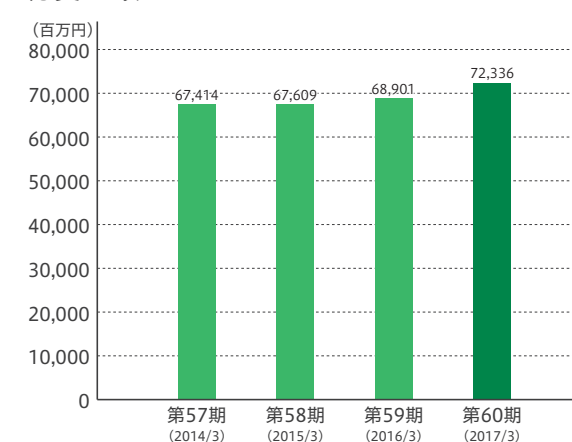
当期純利益



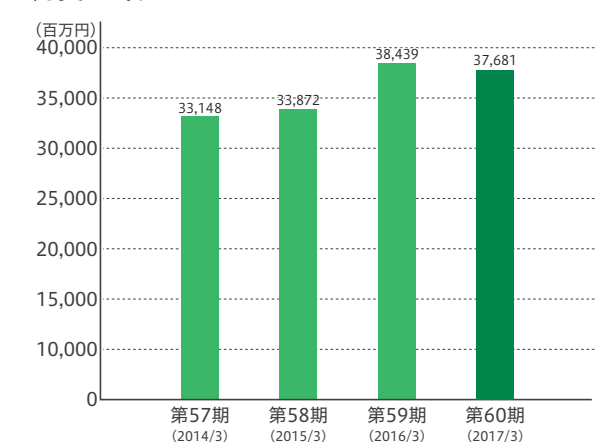
1株あたりの当期純利益



総資産額



純資産額



コーポレートガバナンス

当社は株主、投資家、顧客、従業員など全てのステークホルダーから

尊敬され愛される企業を目指し、企業活動を行うことを基本方針のひとつとしています。

そして、その実現のためにステークホルダーからの信頼を得ることと、健全な企業経営を重要課題と位置づけ、

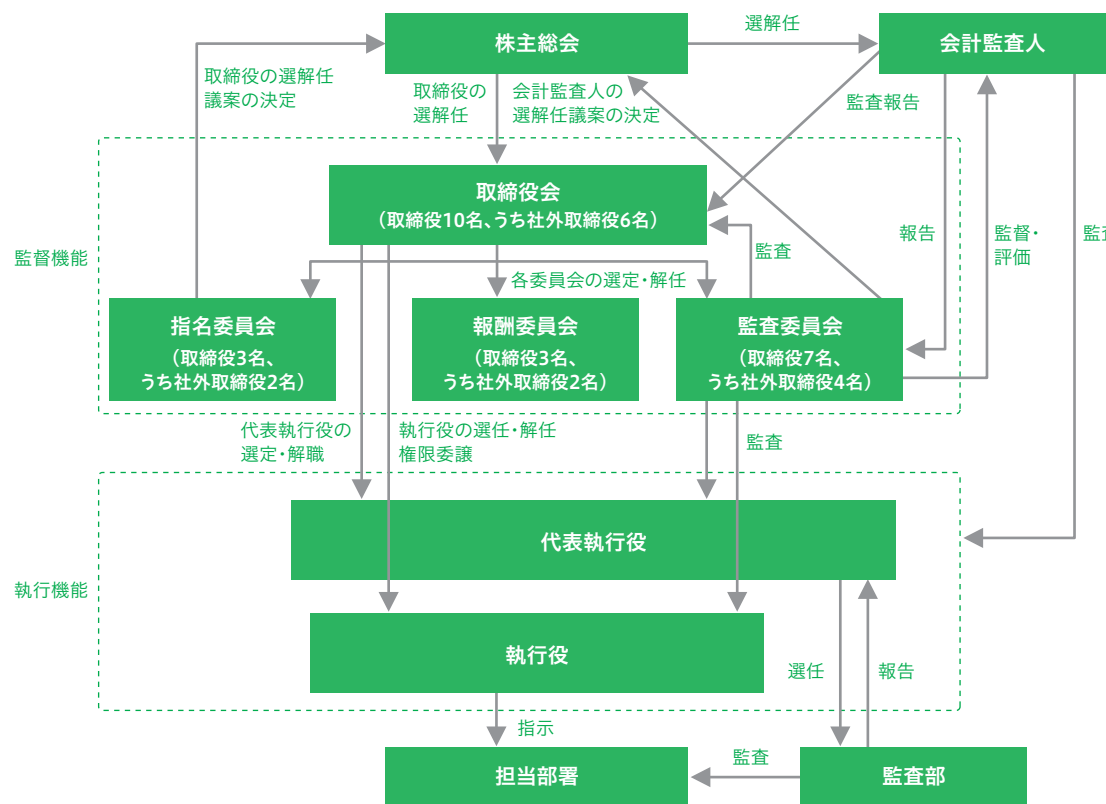
コーポレートガバナンスの拡充として各施策を講じています。

＜コーポレートガバナンス体制の概要＞

当社は会社法に規定する指名委員会等設置会社であり、取締役10名(うち社外取締役6名)および執行役13名(兼務取締役1名を含む)により構成されています。社外取締役は客観的・大局的に、企業価値の向上という観点から執行役が行う経営の監督ならびに助言を行っています。業務執行および経営監視の仕組みとしては、株主総会において選任された取締役で構成する取締役会が会社の重要な意思決定と執行役の監督を行い、経営を監視し、取締役会により選任された執行役が担当業務ごとに強化された権限により、迅速で効率的な業務執行を実現しています。各委員会(指名委員会、報酬委員会、監査

委員会)の委員は、過半数が社外取締役により構成されています。各委員会の役割として、「指名委員会」は次回の定時株主総会に提出する取締役候補の決定、「監査委員会」は取締役および執行役の職務執行の適法性・妥当性監査と会計監査人選任案の決定、「報酬委員会」は取締役および執行役の報酬制度・報酬金額等の決定を担っています。また、業務執行上の重要案件(取締役会決議事項を除く)については、執行役全員で構成する「業績検討会議」および「執行役会」において審議、決定することとしています。さらに取締役会は「内部統制システム整備の基本方針」を示し、その整備・運用を監視しています。

コーポレートガバナンス体制図



※ 2017年6月29日現在の役員数

＜ コーポレートガバナンス体制を 採用する理由 ＞

当社の機関設計は迅速な経営意思決定の実現および監督管理機能強化の観点から指名委員会等設置会社としており、各委員会には過半数の社外取締役を据えています。また、監査委員会は会計監査人と連携して執行役の業務執行を監査しています。

このような考え方にに基づき、当社では最良のコーポレートガバナンスを実現するために、「コーポレートガバナンスに関する基本方針」を制定し、公表するとともに、コーポレートガバナンスの実効性を高めています。

▶「コーポレートガバナンスに関する基本方針」の詳細については
<http://www.menicon.co.jp/company/ir/pdf/governance.pdf>
をご覧ください。

＜ リスク管理体制 ＞

当社は、リスク管理責任者を社長とし、リスク管理の全社的推進とリスク管理に必要な情報の共有化等を図るため、CSR委員会を設置しています。リスクについては、各部門のリスク評価を行い、リスクの回避・低減・移転・受容その他必要な措置を事前に講じています。

事故等発生時の対応および事故等の処理後の報告、人命に関わる緊急事態発生時の報告経路、苦情への対応、医薬品医療機器等法その他の関連法規に即した対応等を定めています。また、災害などにより重要業務が中断しないよう事業継続計画（BCP（Business Continuity Plan））を整備しています。

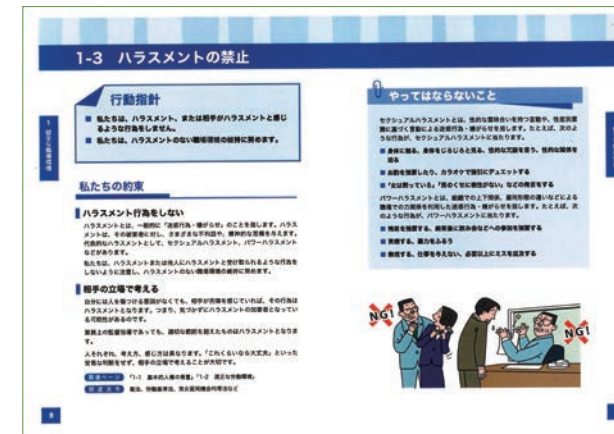
この他に、各分野におけるリスク管理のため、「品質保証安全管理委員会」、「PLD委員会」、「個人情報保護委員会」、「メニコン公正取引管理委員会」、「倫理・コンプライアンス委員会」を設置しています。

＜コンプライアンス体制＞

当社は、以下をコンプライアンスの基本方針としています。

- ①コンプライアンス(法令・定款等遵守)の実践を、経営の重要課題の一つとして位置付ける。
- ②当社の役員および社員へのコンプライアンスの徹底は、当社の経営の基盤であることを強く認識し、健全かつ公正で透明性の高い企業活動を行う。
- ③経営の健全性、遵法性を高めるため、コーポレートガバナンス(企業統治)機能を維持し、法令・定款等に合致した行動をとる。
- ④法令・定款をはじめとする社会的ルールを遵守し、企業倫理意識を常に向上させていく。
- ⑤常にコンプライアンスを意識した、最良の商品およびサービスを提供し、顧客満足度のさらなる向上を図る。
- ⑥万一、法令・定款等の違反行為が生じた場合には、原因究明を徹底して行い、再発防止に努める。

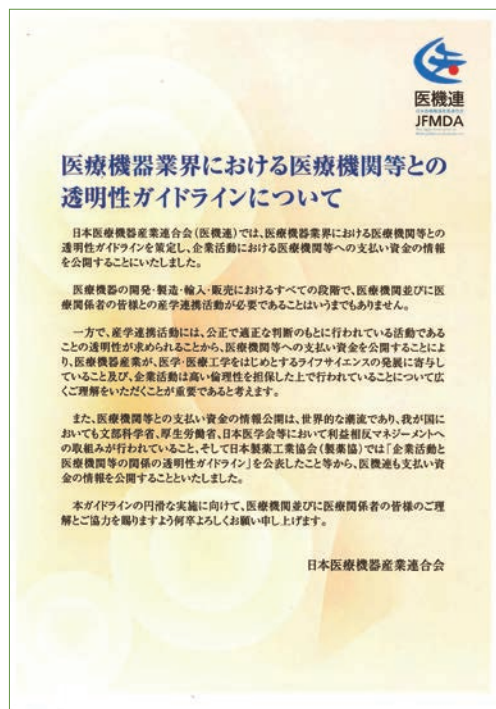
また、国内のグループ会社向けに独自制作の電子版「コンプライアンスガイド」をイントラネット上に掲示し、海外子会社に対してはコンプライアンス規程の整備を通して、グループとしてもコンプライアンスの維持向上に努めています。特に、コンプライアンスの維持向上を目的としたコンプライアンス教育においては部門単位の教育や管理職向け、全従業員を対象にしたe-ラーニングを活用した学習を計画的に行っています。



コーポレートガバナンス

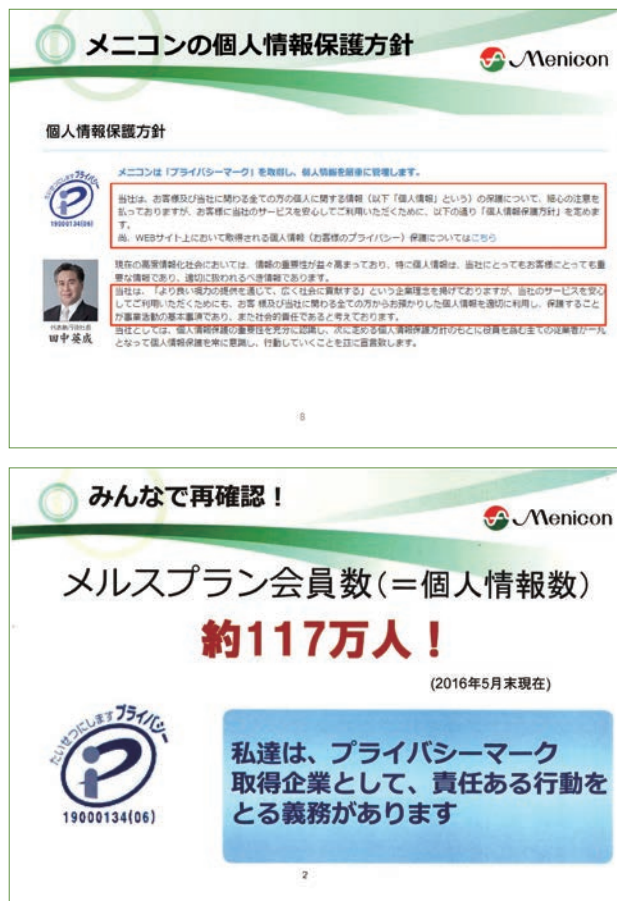
＜ 透明性ガイドライン ＞

当社は「より良い視力の提供を通じて、広く社会に貢献する」を企業スローガンに掲げ、瞳の健康を最優先に考えた製品開発に挑戦し、高度な安全品質を実現してきました。当社は高い倫理性が求められる医療機器関連産業の一員として、医学・医療工学をはじめとする生命科学の研究、実用化、およびコンタクトレンズの適正使用の普及に不可欠な医療機関等との関係の透明性を高め、社会からさらに高い信頼を得られる企業になることを目指し、(一社)日本医療機器産業連合会の定める「透明性ガイドライン」に基づき、医療機関等への資金提供に関する情報を公開しています。



＜ 個人情報の保護体制 ＞

当社では、お客様および当社に関わる全ての方からお預かりした個人情報を適切に利用し、保護することが事業活動の基本事項であり社会的責任であると考えています。そのため個人情報の保護について細心の注意を払うとともに、当社のサービスを安心してご利用いただくための「個人情報保護方針」を定めるとともに、「プライバシーマーク」を取得し、個人情報を厳重に管理しています。また、役員および従業員に対し、個人情報の保護および管理についての教育を実施し、日常業務における個人情報の適正な取り扱いを徹底しています。



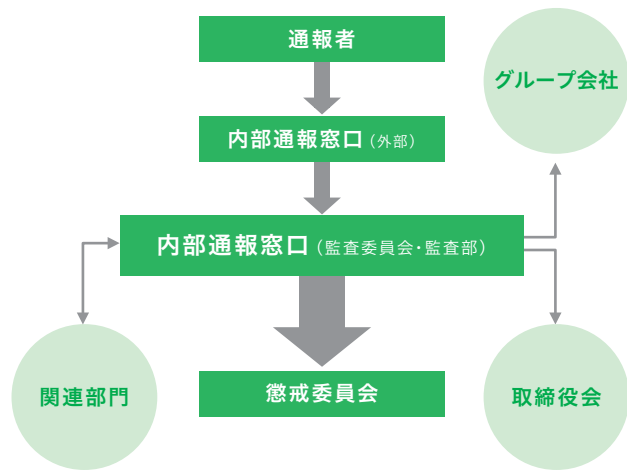
2016年社内個人情報保護教育テキストより

＜ 内部通報制度 ＞

当社は、グループにおける法令、定款、社内規程および企業倫理を誠実に遵守する公正な経営を実現するために、違反行為を独立した第三者機関を介して通報する制度を導入しています。この制度はメニコン社員だけでなく、グループ各社の社員、派遣社員も利用できます。通報に対しては事実確認のうえ、適切な対応をしています。

※調査は監査委員会(主として役員に対して)および監査部が中心となっており、グループ会社および関連部門はこれに協力する義務を負う。

※違反行為を行っている者が役員(グループ会社含む)の場合は会社およびグループ会社の取締役会にて適切な対応を行う。



＜ 品質マネジメントシステム ＞

当社では「安全哲学憲章」を掲げ、「より良い視力の提供を通じて、広く社会に貢献する」という企業スローガンのもと、品質の確保および顧客満足を目指して、本社はもとより、Menicon SAS、Menicon Pharma SAS、Menicon Limited.、Menicon Singapore Pte.Ltd.、株式会社メニコンネクト、NKL Contactlenzen B.V.において、医療機器の品質マネジメントの国際規格である ENISO13485を取得しています。

ENISO13485とは、ISO9001をベースに医療機器固有の

要求事項を追加した、医療機器の安全性と品質を継続的に確保するための品質マネジメントシステム規格のことです。さらに Menicon SAS、Menicon Pharma SAS、Menicon Limited.、NKL Contactlenzen B.V.では、ヨーロッパの品質保証規格に適合した商品であることを示す CEマークも取得し、国内外に向けて確かな品質をお届けしています。

この品質マネジメントシステムが引き続き適切で、妥当で、かつ有効であることを確実にするために、品質マネジメントシステムの経営層によるレビューを年2回開催しています。このレビューでは、お客様からのフィードバックやリスクマネジメントを踏まえた製品の継続的評価、品質方針および品質目標を含む品質マネジメントシステムの変更の必要性の評価を行っています。

また、製造販売後安全管理に関する業務に従事する者に対する社内教育訓練を定期的に行い、お客様を含む市場からのフィードバック情報を適切に収集、評価し、製品の安全確保に継続的に努めています。



＜ 調達購買活動 ＞

当社は、環境に配慮したエネルギーや資源の効率的使用を実践し、使いやすさ・わかりやすさに配慮した安全な商品・サービスを提供していきたいと考えています。取引先の皆様に対して公平な機会を設け、公正な評価を行い、当社が求める条件に見合う優れた部材等を調達しています。調達購買活動を通じて社会に貢献し、法令を遵守すると共に、地球環境に配慮した取引を行っています。

Menicon Challenge

1951年、日本で初めて角膜コンタクトレンズの開発に成功。

これを起点に、メニコンのパイオニア精神は今日まで脈々と受け継がれています。

ほかの誰も手がけていない、新しく独創的なものを生み出す挑戦心こそ、メニコン全社員に息づくDNA。

人にも、動物にも、環境にも優しい企業として。地域でも、日本でも、世界でも通じ合える企業として。

何事にも挑戦し続けるメニコンの事業活動が、そのまま社会への貢献活動に共鳴していくような

企業価値の向上を目指していきます。

次の夢へつなぐ、メニコン4つの挑戦

1

Menicon Challenge 視力を提供する

一人ひとりの眼の状態に適した
レンズづくり

- オルソケラトロジーレンズ
- 研究施設 Menicon International Specialty Lens Research Center (MISC)
- 1日使い捨てレンズ
「1DAYメニコン プレミオ」

P12~

2

Menicon Challenge 眼の健康を守る

安全、快適、清潔な瞳を
見守っていく責務

- 禁煙推進事業
- メルスプラン
- NEWブランドデザイン

P15~

3

Menicon Challenge 技術と人材を育成する

ものづくりを紐解き、
人づくりに活かす

- QCサークル活動
- 高木道場

P17~

4

Menicon Challenge 持続可能な価値を創る

レンズ開発で培った技術を
新分野へ、世界へ

- 海外事業
- 新規事業

P18~

Menicon Challenge 視力を提供する

あらゆる世代に応じ、個々に最適な視力と 快適なライフスタイルを提案していく

この世に生まれ、成長していく中で、人は視覚で得た情報を認識していきます。

視る力が衰えることなく健全な状態で続くことが、多くの人の願いであると痛感します。

しかし、視る力にも個人差が生じ、それによって日常生活に不具合を感じることもあるでしょう。

メニコンは、ライフステージに応じ、その人に最適な視力を提供できるようサポートし、

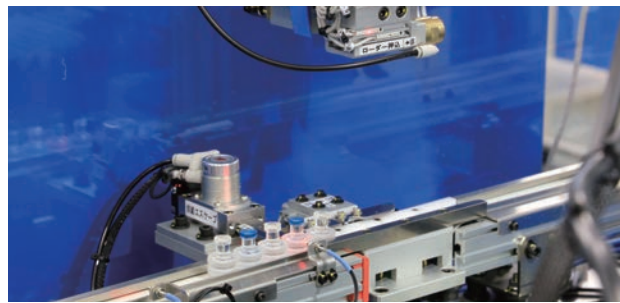
毎日を不自由なく過ごせる健全な環境を支えていく想いで、さまざまなレンズを開発し続けます。

一人ひとりの視力の改善に応える 「特殊コンタクトレンズ」への期待

コンタクトレンズへの新たな期待 オルソケラトロジーレンズ市場に参入

メニコンは、毎日を不自由なく快適に過ごすための視力回復を願うお客様に向けて、さまざまな視点からコンタクトレンズの研究や製品開発に努めています。中でも、まだ近視の進行が軽度な子どもたちや動きの激しいスポーツ、水中競技を楽しむ人たちにとって、裸眼での視力を回復、維持したいという思いは強いことでしょう。その期待に応える処方のひとつにオルソケラトロジーレンズがあります。特殊なデザインを施したこのレンズは、寝ている間に装用することで角膜形状を平らに矯正する効果があり、朝から視力回復した裸眼で過ごすことができます。

そして、いち早くオルソケラトロジーレンズの研究開発に着手し、日本で初めて製造販売の承認を取得したのが、株式会社アルファコーポレーションで、2016年よりメニコングループの一員として新たな一歩を踏み出しています。すでに中国におけるオルソケラトロジーレンズの販売許可を取得し、中国市場への参入～販路拡大を進めています。現在、中国の近視人口は年々増加傾向にあり、大きな社会問題にまで発展しているのに加え、韓国や台湾、シンガポールなど東南アジア諸国でも患者数は広がっており、オルソケラトロジーレンズを用いて角膜形状を変化させて視力を矯正する治療法は注目を集めています。「より良い視力の提供」に向けて、視力に悩む人たちの期待に応える精度に優れたレンズ製造と、求められる需要に対応できる販路拡大をグループ一丸となって推進しています。



α オルソ®-K:中国向



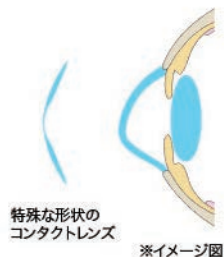
特殊タイプのコンタクトレンズの研究・ 開発を行う研究施設MISCを開設

眼の形状変化や角膜疾患などの症状によって、一般的なコンタクトレンズを用いて近視や遠視、乱視、老視などの視力矯正を行うのは難しい場合があります。より良い視力を得たいという思いを諦めなくてはならない人を、1人でも少なくすることを目指し、メニコンはその手法を探りながら視力向上をサポートできる研究所としてMISCを東京に開設しました。ここでは、その人の眼の状態に応じた特殊な形状のコンタクトレンズの研究を行い、処方技術や新たな視力矯正の方法を追究していきます。



これまで円錐角膜や角膜移植後、レーシック後による角膜不正乱視眼の視力矯正には、一般的なハードコンタクトレンズを改良しながら応用への知恵と工夫を重ねてきました。近年では、円錐角膜疾患を主体に考えたレンズが登場するなど優れた成果を得る一方で、装用したときの異物感や不安定さの問題なども浮き彫りになっています。そこでMISCでは症状の進行した対象者に、装用の安心感を提供できる新しいデザインの特特殊コンタクトレンズを開発し、あらゆる観点からその人に適した矯正手段が選択できるような多くの事例を収集し、得られた知見を国内外に発信して普及に努めていく役割を担っていきます。メニコンの責務である「見える喜び、生きる喜びを提供する」(Quality of Vision、Quality of Lifeの向上)という使命のもと、コンタクトレンズの可能性と実用化の研究を進めています。

MISC:Menicon International Specialty Lens Research Center



円錐角膜に適した デザインの 特殊コンタクトレンズ

カーブのきつい角膜中央部となだらかな角膜周辺部の形状に合わせ、角膜とコンタクトレンズが極端な接触をしないような特殊形状のレンズ。

※イメージ図

コンタクトレンズの進化形 「1DAYメニコン プレミオ」の誕生

忙しい朝をスマートにスタートさせる 先進の使い捨てコンタクトレンズ

ここ数年、国内のコンタクトレンズ市場は、ディスポザブル(使い捨て)タイプやカラーレンズがシェアを伸ばしています。エンドユーザーの動向を見込んで、メニコンが製品開発に力を注いだのが、1日使い捨てコンタクトレンズの分野です。2005年の「メニコン 1 DAY」、2011年の「Magic」に続くシリーズとして2016年に発売されたのが「1 DAYメニコン プレミオ」で、この製品にはメニコン独自のさまざまな開発ノウハウを集約しています。

今回の「1 DAYメニコン プレミオ」の最大の特長は、レンズ素材と、レンズを取り出すパッケージデザインです。「安全」「快適」「清潔」の開発コンセプトのもと、レンズの素材には、角膜に必要な酸素を多く通すシリコーンハイドロゲルを採用し、角膜になじみやすいやわらかさを得て、つけ心地の良さを高めています。さらに、レンズを取り出すパッケージには、角膜に接するレンズの内面を指で触れることなく装用できるSMART TOUCH(スマートタッチ)を採用しています。この利便性により、レンズの表裏を確認する手間が省け、忙しい朝の過ごし方にゆとりを生むなど商品の価値がもたらすライフスタイルの提案を加味していることも、メニコンらしいこだわりと言えるでしょう。



1 DAYメニコン プレミオ

こだわってつくるONLY ONE メニコンを超えるメニコンを目指す

時代の移り変わりや世代ごとで異なってくる価値観は、コンタクトレンズも例外ではありません。メニコンのコンタクトレンズ開発の歴史を振り返ってみると、安全で高品質のレ

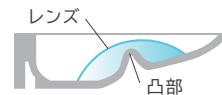
ンズづくりに徹するが故に、“使い捨てレンズをつくる”という概念は受け入れ難いものでした。しかし、エンドユーザーの潜在的需要が次第に高まりつつある現実に危機感を覚え、使い捨てレンズ市場の参入に出遅れたハンディを逆転させるには他社を引き離す製品力にあると信じ、開発姿勢を喚起させたのです。それが今回の「1 DAYメニコン プレミオ」で実を結び、コンタクトレンズの素材を新しくしただけの製品開発だけでなく、さらに新たな価値づくりを目指したSMART TOUCHを生み出すことになりました。そのこだわりの集積こそが、メニコンの事業活動の生命線になっていると言えるでしょう。

Magic 1day Menicon Flat Pack



1 DAYメニコン プレミオ SMART TOUCH

バックを開封すると常にレンズの表面が上を向いた状態のため、清潔に簡単に装用できるスマート仕様。



あける



つまむ



つける

さらに「1 DAYメニコン プレミオ」の生産についても高度管理医療機器工場として高い品質基準を設定した各務原工場を2015年に稼働させ、最新のモールドイング技術による安定した大量生産を実現しています。



各務原工場



禁煙運動推進の一環として毎月22日（スワンスワン「吸わん吸わん」の日）に、グリーン活動を実施

2

Menicon Challenge 眼の健康を守る

高度管理医療機器を取り扱う 企業にふさわしい 健康に向けての創意工夫を図る

目に見えてわかる「メニコンブランド」 さらに広がる安心と信頼のクオリティ

メルスプラン加盟施設との “眼の健康を守るネットワーク”の強化

「より良い視力の提供を通じて、広く社会に貢献する」という企業スローガンのもと、コンタクトレンズ装用者の眼の安全を第一に考えたサービス普及に向けて2001年にスタートしたのが「メルスプラン」という定額制会員システムです。レンズを購入するのではなく月々の定額制にすることで、破損などの万一のトラブル時には新品と交換ができ、常に良いコンディションでレンズを使用することができます。また、販売店にとってもお客様の固定化が図れるため、サービスの向上につながる効果を生んでいます。

現在、コンタクトレンズを使用されるお客様の接点となる販売店は、メニコン直営店をはじめ、グループ店のエースコンタクト、富士コンタクト、シティコンタクトを加えると全国合計154店舗を数えます。さらにメルスプラン加盟施設は1,693施設の規模となり、メルスプランの販売チャネルの拡大、ネットワークの強化が進んでいます。エンドユーザーにとっても、メニコンブランド&メルスプランによる安心と信頼の“可視化”が認知される一方で、会員満足度を向上させる期待にも応えなくてはなりません。

そこでメルスプラン会員一人ひとりに最適な情報を提供できるスマートフォンアプリを導入し、アンケートを通じてユーザーの声をサービス向上に活かしたり、ご自宅への商品お届けサービスを実施するなど、会員への利便性向上を図るトライアルを実施しています。なお、メルスプランの会員数は2017年3月末時点で前年比約6万人増の122万人の規模を誇るまでに広がっています。

商品とサービスのデザインを一新 NEWメニコンブランド展開

眼の健康をサポートするため、安全で高品質な製品とサービスの提供を常に心がけているメニコンは、世代や時代を超えて多様なライフスタイルを持ったユーザーのニーズに応えていくため、メニコン創業65周年を迎えた2016年の節目に、次代に先駆けたブランドデザインを披露しました。

リニューアルしたブランドデザインは、日本で初めて角膜コンタクトレンズの開発に成功したメニコンを象徴するイノベーションとフロンティアスピリットを表現すべく、「日本」「輝き」「瞳」を具現化した円をモチーフに、ブランドごとのアイコンと、新しい時代に合わせたカラーリングによる効果的な融合によって、Newメニコンブランドのパッケージデザインを形成しています。

プロダクトの安心、高品質を現代の感覚で表現したデザイン



このリブランディングは、コンタクトレンズをはじめ、コンタクトレンズのケア用品、直営販売店のイメージをすべて統合させることによって、すでにメニコンを認知している層から今後顧客と成り得る潜在的な見込み層までをカバーする視覚的な連動効果を意図したアプローチで展開しています。将来にわたるメニコンファンの醸成に向けて、自分らしく輝ける毎日を過ごしていただきたいというメッセージを込めて生まれたブランドデザインです。

「健康づくり」へのアプローチ

禁煙運動の推進を本格的に事業化

喫煙が身体に与える影響については、喫煙者はもちろん受動喫煙が健康被害を引き起こす問題も含めて、メディアなどでも盛んに取り上げられています。眼の病気として加齢黄斑変性症が発症しやすいことも確認されています。メニコンは眼に携わる企業として、タバコによる健康被害をなくすよう、これまで推進してきた禁煙運動を本格的に事業化していくことを定款に追加しました（2016年6月の定時株主総会で承認）。

今後は、「禁煙運動推進のための研修会、講習会など各種教育事業に関する企画、立案、制作、運営ならびにコンサル

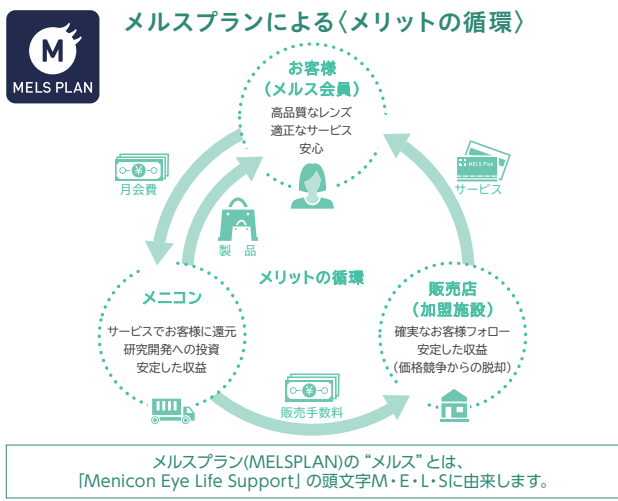
ティング業務」などにも取り組んでいくほか、地域の皆様と共に住みやすい環境づくりに向けて努めていきます。2017年2月にはメニコン HITOMIホールにて相山女学園大学看護学部助教の谷口千枝先生をお招きして地域住民の方を対象に「禁煙サポートセミナー」を開催しました。



禁煙サポートセミナー



禁煙運動推進を象徴するロゴマークを作成



高品質のレンズづくりを支える 知と技が生かされている

QCサークル活動を通して 日常的に改善への知恵と工夫を創出

多様なコンタクトレンズを生産する関工場は、徹底した品質管理体制を誇る主力工場です。そして、レンズの高品質性を支える一翼を担っているのが、QCサークル活動です。今、その活動で注目を集めているのが、石田一稀さん（CL製造一課）をリーダーとするチーム「One minute」で、3年連続最優秀賞（入賞は4年連続）の記録を達成、継続中です。石田さんは入社8年目の26歳。まず、リーダーとして心がけていることについてお尋ねしました。

「通常の業務では気づいていても改善できない状況を QCサークル活動という場を通して、改善意識を持ち込んで取り組むようにしています。実務と直結した課題を洗い出すメニコン独自の企業風土が根づいているので、私のチームに限らず、全26サークルとも各工程の業務に対して本気モードの問題意識の高い改善提案を発表していると感じます」

今回、石田さんのチームが最優秀賞を受賞したテーマは、『キャッパーチョコ停の低減』で、レンズを収めるケースのキャップ締め工程において不具合が生じるとラインは停止するため、その原因解析と改善策に取り組んだものです。

「テーマの着眼点もそうですが、年間6,840回の設備停止を低減し、復旧に要する114時間を低減できた実証性、さらにプレゼンテーションの手法が完璧だったという高評価を得ることができました」

生産の効率化、不良品の削減、安全性の向上など、さまざまな課題に対して、問題を分析し、相互啓発を通じて解決への提案を見出していくQCサークル活動。この地道な礎があるから、より高度で精度の高いコンタクトレンズづくりをかなえていると言えるでしょう。



高木道場の伝道師によって ものづくりの技は受け継がれる

今でこそコンタクトレンズは完全自動化のラインによる大量生産が主流となっています。その先進性が進む裏側で、レンズづくりの工程やしくみなどがブラックボックス化して、ものづくりに必要な創造力や探求力が失われているという“現実”が見え隠れしています。

その危機感を10年前に察知したのが、今年65歳を迎える高木文吾さん（本社教育研修部 生産技術者養成係）です。

「10年前に所属していた安全管理課はエンドユーザーからレンズの苦情や不具合を受ける部署でした。私も長い間レンズを手づくりしていたので、出荷された後のレンズの使われ方について興味を持ち、レンズを生産する現場の人たちにもこういう情報を教えていくべきだと思いました」

その意志を社長に提言した高木さんは、新入社員教育の任務を受け、関工場の現場でコンタクトレンズの種類や特長、ケア用品に関するすべての基礎教養を教授することに。



「レンズの設計から削り出しまで手づくりによるレンズのしくみを学ばせる意図は、生産ラインにトラブルが生じたときの素早い対処につながりますし、何より各工程でケガ無く安全に仕事ができる意識を高めるためでもあります」

いつしか高木さんの教育指導の場は「高木道場」と呼ばれるようになり、受講する研修生のメニューも初級、中級、上級と充実さを極めていきました。実際に旋盤でレンズを削る高木さんの職人技は芸術的で、レンズ厚1,000分の5ミリの違いをルーペだけで見分けるほどです。メニコンが誇るレンズづくりの技術や品質、そして情熱は、確実に高木さんの門下生たちに受け継がれています。

新しい世界に臨みながら、 持続的成長を図っていく

海外本部を東京に設置 機動的なグローバルビジネスの遂行へ

一口に世界といっても、各国によって文化や商習慣、法律による規制などは異なり、それらを踏まえたビジネス展開が必要になってきます。各国に適した戦略を立案するために、まず海外関係会社を統括する海外本部をメニコン本社から新事業所として「海外本部 東京オフィス」に移転しました。コミュニケーションや情報が集中する東京を拠点とする体制で、長期的視点に立った海外事業戦略をスピーディーに遂行していきます。

具体的には、中国・欧州・米国の3地域に分けて活動を強化する方針です。中国では、すでに販売許可を取得している角膜形状を変化させて視力を矯正するオルソケラトロジーレンズや特殊レンズの販売チャネルを拡大していきます。欧州では、1日使い捨てコンタクトレンズの拡販を推進するとともに、オランダで成功したユーザーの瞳の形に合わせてカスタムデザイン対応できる特殊レンズのモデルを他国へ展開するプロジェクトを進めています。米国では、北米を重点に置きながら、メニコンが自信をもって開発したSMART TOUCH採用の「Miru」「1DAYメニコン プレミオ」をグローバルスタンダードとして提案し、販路を拡大していくことによって1日



海外向けブランド「Miru」

使い捨てコンタクトレンズ市場でのシェア獲得を目指します。また、今後はコンタクトレンズ装用人口の多い地域を視野に入れながら、市場拡大が見込まれる南米、東南アジアに向けて海外向けブランドのコンタクトレンズを拡販していきます。

レンズの研究開発で培った技術を 新しい分野で開花させる

メニコンでは、コンタクトレンズやケア用品の研究開発から派生した成果を生かす3分野「動物医療事業」「環境バイオ事業」「ライフサイエンス事業」を新規挑戦事業として長期的に事業を育てていく活動を続けています。

動物医療事業では、子会社である株式会社メニワンでの動物眼科医療の成長を目指しています。具体的には、獣医師との共同により、治療用の器具やサプリメントを開発。また各地でセミナーを開いて動物眼科医療の環境づくりに力を入れています。さらに国内にとどまらず海外での動物眼科医療の普及を進めていきます。

環境バイオ事業では、植物繊維主成分のセルロースを分解する酵素を活用した稲わら分解促進材の開発をはじめ、家畜排泄物をたい肥化するシステムをトヨタ自動車株式会社との共同開発で製品化したり、スターバックスコーヒー・ジャパン株式会社のコーヒー豆かすを乳酸発酵させて飼料へのリサイクルを図る技術を確立するなどの環境ビジネスの可能性を広げています。

ライフサイエンス事業では、生殖補助医療用製品・研究用理化学製品・QOL向上のためのサプリメントの販売などに取り組んでいます。そのほか子会社である株式会社メニコンネクにて、目を酷使する現代人向けに新たなアイライフスタイルの提案の事業化に挑戦しています。その第一弾が、ルテイン入りのドリップコーヒーです。ルテインとは、マリーゴールドや緑黄色野菜などに含まれるカロテノイドの一種です。特に目に対する効果が評価されており、高い抗酸化作用を持つ成分として知られています。



LUTEIN&ME ドリップコーヒー

エンドユーザーとのコミュニケーション

一人ひとりのお客様に安全で快適なコンタクトレンズライフを過ごしていただくため、疑問や不安をきちんと解決できるよう誠意をもって接し、常に高い顧客満足をかなえる企業を目指しています。

ショップブランド拡大で信頼深まる

お客様の快適で安全なコンタクトレンズライフをサポートでき、よりお客様に「見る喜び」を実感していただけるコンタクトレンズショップであるために。メニコン独自の安全哲学に基づき、高度管理医療機器を取り扱う信頼のできるメーカーとして、お客様に正しいコンタクトレンズの使用方法と情報を提供しています。ユーザーコンプライアンスをより徹底させることも含めて、2015年11月より「コンタクトレンズ選びを、もっと楽しく。お客様の毎日に、うれしさを。」をコンセプトに、新しいショップブランド「Miru」を立ち上げ、全国の直営販売店47店舗を「Menicon Miru」「Miru+」の2つのブランドで展開しています。

さらにメニコンのグループ会社である株式会社ダブリュ・アイ・システムが展開する「エースコンタクト」、富士コンタクト株式会社が展開する「富士コンタクト」に続き、2016年には西日本エリアを中心に株式会社エーアイビーが展開する販売店「シティコンタクト」を加え、「Miru partner」として107店舗（2017年3月末時点）の販売ネットワークを結んでいます。お客様に近い場所で、直に眼の健康をカウンセリング＆チェックできる窓口を充実。そして、メルスプラン加盟施設という“安心の共有ブランド”を携えることで、メニコングループへの信頼性をショップブランドによる「見える化」によってお客様に認知していただきます。

メニコングループとしての店舗展開を統一のイメージで括り、これまでの安心、安全なコンタクトレンズの提案のほか、多くのお客様のライフスタイルにお応えできるよう「店舗・サービス・スタッフ」を充実させて、いつでもどこでもベストコンディションなコンタクトレンズライフの提案、提供を心がけていきます。



シティコンタクト

ご相談の安心窓口、お客様センター

メニコンでは、お客様に正しく安全にコンタクトレンズをご使用いただくために、レンズやケア用品に関するお問い合わせをはじめ、さまざまな疑問や不安、お問い合わせのご相談窓口として「お客様センター」(0120-103-109)を設置しています。電話でのお問い合わせは月平均約2,000件、メールでは月平均約350件に対応しています。的確かつ迅速にお客様のニーズに応えられるよう、幅広い知識が要求されるスタッフの教育に力を注ぐとともに、最先端のオペレーティングシステムを導入して、サービス品質の向上に努めています。このほか、メルスプラン122万人（2017年3月末時点）の会員様や加盟施設との窓口である「メルスセンター（会員専用ダイヤル）」を設置し、いつでも安心してご利用いただける体制を整えています。



社員とのコミュニケーション

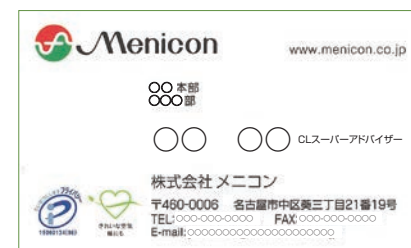
メニコンの企業価値を創造していく上で、社員は未来への鍵を握る重要な存在です。当社では主体性を活かして果敢に実践する行動力のある人材を育成するとともに、挑戦する機会の提供や挑戦のための環境をサポートしています。

プロを育てるアドバイザー資格制度

メニコンは2002年より独自のコンタクトレンズアドバイザー資格制度「PAL※」を導入しています。①商品の品質を顧客に正しく確実に伝える力 ②商品の高付加価値化に対応できる力 ③習得した知識と技術を活用できる力、の3つを備えた「創造型スペシャリスト」の育成に取り組んでいます。基礎的な内容の「エレメント」をベースに、「スーパー」「ハイパー」の3階層からなる試験は800名近くの受験者を数え、社員間での自主的な対策勉強会も活発です。専門知識を網羅したテキストは、業務に直結したバイブル的存在としても活用されています。

さらに、「スーパー」および「ハイパー」保持者は、コンタクトレンズのプロフェッショナルとしての自覚を持ち続けられるよう、名刺に保持資格を表示するなど、社員一人ひとりが成長する企業風土をつくりあげています。

※Menicon Products Adviser License Systemの略称



心身の健康をサポートする充実体制

メニコンは、高度管理医療機器であるコンタクトレンズを取り扱う企業として、社員が健康に良いコンディションで仕事に打ち込めるよう、さまざまな支援体制を整えています。医療関係者やエンドユーザーであるお客様と接する機会が多いことから、インフルエンザ予防接種や、禁煙外来治療費を援助しています。

また、2016年から本社事業所でマッサージ師（国家資格）による施術が受けれるようになりました。メンタルヘルスケアとして、労働安全衛生法に則ったストレスチェックはもちろんのこと、社員の家族も利用できるホットライン「こころの電話相談」を導入し、サポートの充実を図っています。このように社員が、心身ともに健康で毎日を送れるよう応援しています。



高分子化学の研究成果を通じて、レンズの機能や魅力を伝える



株式会社メニコン
コーポレートコミュニケーション部
名古屋工業大学 特任准教授
伊藤 恵利

私は大学で材料工学を学び、卒業と同時にメニコンへ入社しました。以来20余年、総合研究所で高分子化学を専門にメディカルデバイス用ポリマー材料の研究開発に取り組んできました。画一的な答えのない研究職は、精神的に厳しい仕事ですが、未知の課題に挑み、一度でも答えを見つけ出したときの喜びは計りしれないものがあります。大学院に入り、博士号取得の道を歩んだのも、研究に魅了された者の必然の選択肢だったのでしょう。

2016年からは、コーポレートコミュニケー

ション部へ異動し、技術広報機能を立ち上げました。私がこれまで携わってきた高分子化学という学問は、材料の構造や機能が生まれるしくみを解明するもの。今後はこうした研究成果をもとに、メニコン製品の優れた機能や魅力を分かりやすく伝えていくことで、愛用者を増やしたいと考えています。また同時に、名古屋工業大学の特任准教授という役職も務めていますので、未来の日本を担う研究者や技術者の育成に貢献できるような学術指導を心がけていきたいと思っています。

業界関係者とのコミュニケーション

メニコンをはじめとするコンタクトレンズを提供する側の意識を高めること。

その志のもと、得意先や取引先との関係を密にしながら、さらには業界の発展に寄与していく力を惜しみません。

サプライヤーとの意識交流を図る

メニコンが常に製品の品質向上を図り、安定的な供給を続けるためには、原材料メーカーや設備メーカー、さらには広告、ITなどの幅広い業種のサプライヤーの存在を抜きにしては語れません。サプライヤーとの信頼関係をより強固にし、当社の購買方針や取り組みをご理解いただくために、2013年度より開催しているのが主要サプライヤーに参加いただく「MenioClub(メニオクラブ)」です。今年も約100社の取引先企業の皆様を「HITOMIホール」にご招待し、代表執行役社長の田中より感謝の意を伝えるとともに、ミニコンサートを開催しました。その後、懇親会を通じ、当社の執行役をはじめサプライヤー同士で活発に情報交換を行いました。刻々と変わる消費者ニーズや業界動向、各社の取り組みなどを共有できる場として参加企業の皆様にも好評をいただいています。当社を軸に共存共栄の絆を広げ、業界全体の活性化につなげる機会へと発展させています。



眼の健康を支える人材育成に向けて

メニコンでは安全哲学に基づいた人材育成を全国の販売店にも広げるべく、仙台、東京、名古屋、大阪、福岡の5か所の研修センターにて社外研修を実施しています。研修はコンタクトレンズについての知識・技術および接客マナーの2本柱で構成され、定期開講のほか、要望に応じて出張講義も行います。また、全国初の試みとして、一般の学生や既卒者を対象とした「メニコン コンタクトレンズ スクール」を2013年より名古屋でスタート。これは就職支援型の夜間スクールであり、眼

の安全を最優先に考えた行動のできる人材育成を目的としています。2015年からは福岡でも開校し、少人数制の指導のもと修了時には「コンタクトレンズアドバイザー」認定証を授与、2016年度の就職決定率は100%でした。修了生は販売店でコンタクトレンズの正しい使い方をユーザーに伝えるアドバイザーとして活躍しており、スクールを通した眼の安全に対する取り組みが高く評価されています。



安全に使用する普及活動を展開

メニコンが加盟する(一社)日本コンタクトレンズ協会は1958年に発足し、2017年4月現在、コンタクトレンズおよびケア用品関連の製造販売業、製造業、卸売販売業を営む正会員39社および賛助会員33社で構成されている団体です。同協会では行政、医会、学会とも連携を図り、最新情報の提供、勉強会、説明会、展示会などのさまざまな活動が行われています。また、正しい使用方法を呼びかける安全啓発活動、営業所管理者に義務づけられている「継続的研修」の開催、ケア用品の安全自主基準を設け、適合した製品に「適合マーク」を発行、メーカーの枠を超えたオンライン受発注システムの運営など幅広い活動を展開しています。当社もコンタクトレンズのパイオニアとして同協会にさまざまな形で協力。さらに(一社)日本医療機器産業連合会をはじめ、その他の関連団体にも加盟し、業界の健全な発展に力を尽くしています。



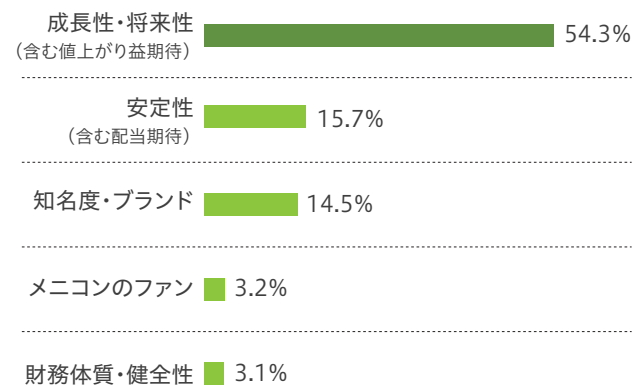
株主・投資家とのコミュニケーション

国内、海外のコンタクトレンズ事業、そして新規事業も含めたビジネスを展開しながら、健全な企業経営と情報開示に努め、株主・投資家の皆様の期待と信頼に応えていきます。

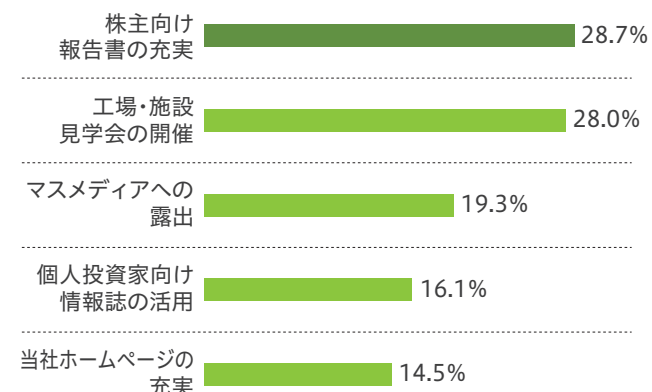
株主の声を聞くアンケートを実施

株主の皆様のご意見を今後の経営とIR活動に反映させたいと考え、アンケートを実施いたしました。メニコンの株主となられたきっかけや重視されたこと、知りたい情報など、貴重なご意見をいただきました。IR活動に対する期待に関しては「株主向け報告書の充実」というご意見を最も多くご回答いただきました。お寄せいただきましたご意見を事業活動に活かしながら、今後も継続して株主の皆様とのコミュニケーションを図っていきます。

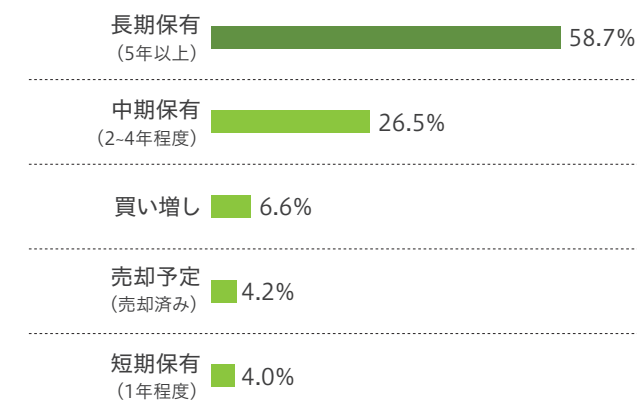
株式を購入した際に重視したこと (上位5位まで掲載)



当社IR活動に期待すること (複数回答あり、上位5位まで掲載)



今後の株式保有方針について



個人投資家向け説明会を定期開催

メニコンは投資家・株主の皆様との対話を通じて、事業に関する理解を深めていただくため、投資家説明会を開催しています。東京、名古屋、大阪、札幌、福岡にて、代表執行役社長の田中による個人投資家の皆様向けの説明会を開催しました。説明会ではコンタクトレンズ業界の現状と将来性について、メニコンのビジョン、成長戦略を説明させていただきました。今後も継続して説明会を開催し、積極的に対話の機会をつくっていきます。株主の皆様にも末永く「サポーター」として応援いただくために、公正かつ適時、適切な情報開示を目指していきます。



社会とのコミュニケーション [環境・動物社会への貢献]

コンタクトレンズ事業で培った研究、製品開発、技術のすべてを新しい分野で開花させていくトライアル。
各事業の可能性を追究しながら、人にも動物にも環境にも優しい地球企業を目指していきます。

畜産向け堆肥化促進材の液体化を実現

メニコンでは、コンタクトレンズ・ケア用品の開発で培った技術を環境分野に活用しています。2006年にトヨタ自動車株式会社（以下、トヨタ）と共同開発した畜産向け堆肥化促進システム「resQ45（レスキューヨンジュウゴ）」シリーズの液体版として2016年10月に「新特別急酵 液体」を新発売しました。

現在、家畜排せつ物は日本国内で年間約8,000万トン^{※1}発生しており、悪臭や水質汚染、地球温暖化の要因とされる温室効果ガスの発生など環境への影響が懸念され、適切な処理や有効利用が求められています。

2013年1月にメニコンとトヨタが共同開発した粉体状の「新特別急酵」^{※2}は、中に含まれる酵素が難分解性有機物を分解し、土壌中の菌の代謝で発酵温度を上昇させ、高温菌で分解を加速します。その結果、堆肥化に要する期間の大幅な短縮（約1か月→約2週間）と減容およびアンモニアガスの大幅削減（従来の約50%～90%減（鶏糞））を実現しています。「新特別急酵 液体」は、「新特別急酵」と比較して確実な散布が可能となり、作業効率化と安定した堆肥づくりが実現し、畜産農家の作業および環境負荷の軽減に寄与することが期待されます。

メニコンは今後も環境分野の取り組みを進めていきます。

※1 2016年農林水産省 畜産統計局推計より引用

※2 食物繊維分解酵素と高温菌を一体化させた、堆肥化促進材



resQ45「新特別急酵 液体」



毎年、「トキ保護募金」に寄付金を贈呈

2005年に稲わら分解促進剤「アグリ革命」を発売して以来、米どころ新潟県をはじめ、全国の農家に利用されています。

アグリ革命は、稲刈り後の水田に残る稲わらを酵素の力で分解させて稲の生育不全や温室効果ガスの原因となる「ガスわき」「浮ワラ」を減少させる地球にやさしい資材として2005年に「アグリ革命」（粉体）を、2012年に「アグリ革命アクア」（液体）を発売しました。

新潟県では佐渡市の「朱鷺と暮らす郷づくり認証米」の栽培に必要な冬季湛水でも「アグリ革命」は効果があることが実証されています。

年間を通じて生き物が棲む豊かな田んぼは、トキにとって冬でもエサがあり、過ごしやすい環境と言えます。そのためには冬の期間（11月～2月）も田んぼに水を張った状態にすることが必要となるため、米の収穫後の速やかな稲わら分解が求められます。

アグリ革命は酵素が働くことにより、すばやく稲わらの分解を促進し、早期の湛水を可能にします。

2011年には「アグリ革命」の売上の一部をトキ保護募金に寄付する活動を開始し、それ以降、毎年、新潟県庁および佐渡市役所を訪問し寄付金の贈呈を行っています。このお金はトキの自然環境の保護および保全活動に役立てていただいています。

- 新潟県トキ保護募金 30万円
- 佐渡市トキ保護募金 20万円



動物用栄養補助食品の販売

メニワンは動物用サプリメントや動物医療機器などの販売を行っています。動物の眼や関節の健康維持に役立つ成分を配合したサプリメント「メニわんEyeシリーズ」を、2016年にビール酵母など新たな成分を配合して「メニわんEyeIIシリーズ」としてリニューアルしました。また、2017年2月より犬の口腔ケア用サプリメントとして「Pero-One」を発売しました。高齢化に伴い歯周病の罹患率が高まる中で歯周病の抑制と口臭低減が期待できます。人と動物が共に健康に生活できる環境づくりに貢献しています。



Pero-One（ペロワン）

獣医師向けに眼科実習セミナーを開講

2016年6月1日にメニワンは、東京オフィスを創設しました。実習セミナーができる会議室を併設し、上海には研修センターがあります。日本国内の獣医師の先生方だけではなく、中国、台湾などから日本の動物医療技術習得のために来日される獣医師の先生方の教育の場として『どうぶつ眼科 外科実習セミナー』を開催しています。各種動物医療機器を取り揃え、動物医療技術習得のための教育の場としてご活用いただくなど、動物医療の発展の一助として貢献しています。



「水を育む森づくり」で環境保全に寄与

植樹・育樹活動を通じて地球に緑を増やしてCO₂を削減し、酸素を増やす活動に取り組んでいます。名古屋市が主催し、市民・企業が連携して、豊かな森づくりを行う「なごや西の森づくり」は、毎年10月に名古屋市戸田川緑地にて開催され、数多くの方々が参加されています。メニコンは、毎年、この植樹・育樹活動に社員がボランティアで参加し、森づくりに必要な苗木の植樹・間伐・草刈りなどの育樹を行っています。昨年はヤマザクラなどを植えました。綺麗な花が咲くのを社員一同楽しみにしています。



また、ケア用品を製造するのに欠かせない水を育んでくれる環境を守るため、ソフトコンタクトレンズのケア用品、エピカコールドシリーズの売上の一部を、水源涵養林を作る「メニコン×Present Tree in 飛騨高山（メニコンの森）」に活かすなど、「水を育む森づくり」を進めています。

メニコンの森は、岐阜県高山市清見町にあります。美しい清流のせせらぎが聞こえ、夏には新緑、秋には紅葉と大自然に囲まれたところです。私たちは未来へ豊かな森を受け継いでいきたいと考えています。



社会とのコミュニケーション [地域社会への文化活動]

芸術や文化、スポーツ、福祉などを通して、人や地域との交流を活性させていくこと。
心豊かなひとときを共有できることを目標に、メニコンは社会貢献活動に取り組んでいます。

未来の名選手が参加、メニコンカップ

サッカー選手を目指す子どもたちの夢とチャレンジ精神を応援する企画として1995年から「メニコンカップ 日本クラブユースサッカー東西対抗戦(U-15)」に特別協賛しています。2016年9月11日、22回目を迎えたメニコンカップは、パロマ瑞穂ラグビー場で開催され1万人近くの観客が集まり、100名を超えるメニコンスタッフもボランティアとして大会をサポートしました。特別ゲストに前園真聖氏をお迎えしてジュニアサッカースクールを開催、WEB中継も行われ大勢の方にご覧いただきました。

ハーフタイムには地元名古屋より甲子園も沸かせた東邦高校吹奏楽部のマーチング演奏が披露されダイナミックかつ精緻な動きを見せていただきました。

2011年より復興支援活動として福島県相馬市光陽サッカー場に会場で集めた募金45,511円をグラウンドの維持・復旧に必要な芝生の種に換えてお届けしました。

※グラウンドの選定にあたっては、公益財団法人日本サッカー協会のご協力をいただきました。



メニコンスーパーコンサート2016

視ることの素晴らしさを多くの方にお届けするために、ホールの臨場感や指揮者の躍動感などを生で感じ、目で見て楽しんでいただけるよう、毎年メニコンスーパーコンサートを開催しています。

2016年は神戸にて「メニコンスーパーコンサート2016 宮川彬良&アンサンブル・ベガ特別演奏会」を開催しました。第一部は“オペラの楽しみ!? & オペラとは何か”を宮川彬良氏のユーモアあふれる絶妙なトークで会場を沸かせました。第二部は宮川氏が初めて手掛けたオペラで、日本初の角膜コンタクトレンズをつくったメニコン創業者田中恭一の半生をモチーフにした“歌劇 あしたの瞳”をコンサート形式でお届けしました。宮川氏の楽しい音楽に観客は魅了されている様子でした。



宮川彬良&アンサンブル・ベガ

目の愛護デーイベントを多彩に実施

目に携わる企業として目の安全啓発活動に取り組んでいます。10月10日の目の愛護デーに向けて目の健康について楽しく学べるイベントやコンテストを実施しました。文化施設のメニコンANNEXでは、目にまつわるお芝居、介助犬の役割と動物(犬)の見える世界、目の健康に良い食事のセミナーなどを開催しました。地域の皆様と一緒に目の健康について考えていく機会とさせていただきます。



目の愛護デー、パラパラ漫画コンテスト

2016年は初の企画として目に視覚の残像が残る“残像効果”で絵が動いて見える「パラパラ漫画」を一般公募しました。パラパラ漫画は、他とは違う物の見方の発見があり「みる」ことをさらに楽しめるアートです。作品テーマは『発見』です。集まった作品はパラパラ漫画の特徴をよく捉えた作品で「みる」楽しさ、可能性を感じました。



ギャラリーMenioリニューアル

2012年に文化施設の拠点として本社、ANNEX1FのギャラリーMenioを開設しました。2016年に創業65周年を迎えたことを機に、メニコンのモノづくりの歴史、技術を残していくためにANNEX「ギャラリーMenio」をリニューアルしました。開発当時の加工機や歴史年表、コンタクトレンズの製造工程なども新たに展示し、コンタクトレンズ開発の軌跡をご覧いただけます。また、メニコンDNAコーナーは作者のメニコン初代会長・田中華山(竹彫工芸)、創業者・田中恭一(刻画)、技術顧問・田中勇

輝(ボトルアーキテクチャ)の人となりにもフォーカスし、メニコンの基本精神である「独創とチャレンジ」を発信するコーナーとしました。



ボトルアーキテクチャを奉納

当社の技術顧問・田中勇輝が制作したボトルアーキテクチャ「薬師寺東塔・西塔」を2017年3月に奈良薬師寺へ奉納しました。金堂で制作者の田中より薬師寺の村上太鳳管主に目録を贈呈し、その後、本坊(お写経道場)の玄関ホールで作品の除幕式を執り行いました。作品は本坊(お写経道場)玄関ホールに展示されています。

ボトルアーキテクチャは特注のガラスボトルの中に入った木造の薬師寺で設計から部品の削り出し、組立工程、仕掛けまで自らが考え約8,500の部品を一本の丸太から削り出しガラスドームの中で44分の1の大きさで作りあげています。

今回奉納した作品と同じ薬師寺西塔は「ギャラリーMenio」にも展示しています。



